THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年十二月二十五日

定價金四錢

女學雜誌

第四十六號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

目録

●〔女學叢誌〕運動の必要●〔中外新報〕十數件●〔學藝一斑〕理學一斑●〔對譯〕英語俚諺○婦人の心得●〔列女傳〕瞽女梅澤豊の傳●〔雜記〕史の話 ○夫婦大學 ○育兒の研 ○婦人の心得●〔新作物語〕巣守の妻（春のや主人）●〔家政要報〕婦人洋服仕立屋の景况其他數件●〔御伽草〕年とりたる犬○數學問題○考物○前々號の答●〔寄書〕歌數首

◎女學叢誌

運動の必要

教育上に於てハ男女の區別あるべからずとハ余輩屢々本誌上に論じたるところなるが歐米諸國に於ても婦人の高等教育といへる論題ハ近ごろ世上に喧しく殊に教育家の間にその議論甚だ盛むなりと見え歐米より弊舍ゑ達せる數種の婦人新聞および教育雜誌などを見るに毎號この論題を掲げざるハなく甲ハ婦人に高等の教育を授くるハ害ありと主張し乙ハこれに反對して余輩と同じく教育上男女の區別あるべからずと唱へたり而して高等の教育ハ害ありと主張するもの丶說ハ婦人をして餘りに高尙なる學問をなさしめ太く精神を使はしむれバ遂にハ身體（こゝに身體といふハ心に對していふ身體にて腦神經などの體をも含みていふなり）を損ひその害を子孫に及ぼすこと少からずといふにありてこれ多くハ醫家の說なりと見えたり余輩これを生理心理の學理に求むるに流石ハ歐米大家の說とて亦一理なきにハあらざるなり抑々生物の心も身體もこれを用ふれば益々發生して强くなり用ひざる時ハこれに反して弱くなりゆくハ進化の定則なりとぞ聞えたるされバ高尙なる學問をなし深くもの丶理を究むるなどに精神を用ふる時ハ益々精神發達と促し愈々心力と强くなすに相違なかるべしといへどもその身體を勞動すこと少き時ハ身體ハまた益々衰へ愈々弱くなりゆくべし婦人にして身體の弱からんにハ子孫の發育に害あること至て大なり故に彼の婦人に高等の教育を授くるハその害大なりといへる說もまた決して道理なしとすべからずされども斯る害ありとて直ちに婦人に高等の教育と授くべからずとするハ余輩の與せざるところなりその害あらんにハ由て起る所以と求めてこれと防ぎ之と除くの方を考究して可なりいかで男女の區別を立て精神の發達を勉めし先ず世の婦人と率ゐる男子の附屬物たらしむべきされバ如何にしてこの害を除かんか身體の運動法を求めて之を勉しむるの外ハあらざるなりさらぬも婦人ハ男子よりも運動の足らざる習ひなるに精神を用ひて心力のみ强くなり行かんにハ體身の發

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

生は精神の發達に負けて益々虛弱となり子々孫々その害を受け繼ぎて遂には天下後世に人の苗裔を絶つにいたるべしこれ勇々しき大事にして身體の運動決して忽せにすべからず歐米諸國にても身賤しきものゝ妻は富みて貴き人の夫人よりも子を產むこと多しといひ我が邦に於ても貧しきものゝ子寶といへる俚諺ありこれ身貴きものは賤しきものよりも多少精神を用ふること多く賤しきものは身體を勞動すること繁かるがゆゑなるのみ殊に我が邦の貴婦令孃といはるゝは深き窓の中に起居して手には日に三たびの箸より重きを持たず足はJohnが住家に到るより遠きを行かざるがごとき有樣なれば微風にも倒るべき風情にて世には軟草艶花に置ける露の重げなる狀ありなどとてこれを賞すべけれども斯くも身體の虛弱なるは取も直さず病者にして身を終るまで不產女たるもの多く偶々子を擧ぐるものあるもいかでその子の健全強壯を望むべき抑々心と體と相關係するの親密なる事は心理家の常に唱ふるところなり身體虛弱なれば精神もまた隨て虛弱ならざるを得ず精神の虛弱なるものいかで大事に堪へ得べき況して高尚なる學問をなし深遠なる眞理を究むるをやされば精神の強壯ならん事を思はゞ身體の健全を計るべし身體の健全を計らんには之が運動を勉むるの外に其方ある可らず身體健全ならんには精神も亦益々發達して強くなり行べし心と體と負ず劣らず共に健全強壯なる完全の人となりてこそ始て男子と共に世に立て生存の競爭にも從ふべけれさては世の中に於て男子のなし得る程の事何事をも女子の爲し得られざるものゝあるべきされば如何にして身體の運動をなすべきか余輩は我邦婦人の間に於て西洋諸國に行はるゝ球投の如き活潑なる遊戲を盛ならしむるある運動の良法ならめと思ふなり近頃貴婦人方の思したゝせたる舞踏會などこそ婦人の運動に適當なれといへ其他交際會とか慈善會とかいへる創設のありし事は聞けども未だ婦人運動會といへる創設のありしと聞かず歐米諸國にては運動會即ちAthletic Societyなどいへるありて男女打雜り活潑なる遊戲をなせる會の甚だ盛なりと聞く余輩は我貴婦人令孃達に於て斯る會の創立あらんことを希望して止ざるなり我邦從來婦人の遊戲中にも羽子或は毬のつき競べなどの如きは多少運動の便なしとせざるなり今年もはや曆の軸の表れて殘り少き日數となりぬ世の貴婦令孃達よ目出度年とは迎へ羽子手毬などつきて慰み給へさりとて餘に尻をな搦れ給ひそ顏に墨をな塗せ給ひそ記者も今年は本號にて筆を洗ひ年新まりて又なん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎中外新報

○皇后宮の御裝飾品　我が宮内省より伯林府にて有名なる金物細工師へ注文ありたる皇后宮の冠冕と頸飾とハ愈々成就したるよしハ嘗て報知新聞より本誌に轉載したることありしが今また同新聞に據るにこの冠冕ハ六百個の寶石と九個の光玉とを以て飾りたて光玉の最も大なるハ凡て十一カラッの重さあり九個の光玉ハ自在に取外し金剛石を差換ゆるやうに出來居れりこの金剛石ハ髮留針の先きに嵌めあるゆゑ冠冕に用ひざる時ハ髮留針として使用するを得べしまた頸飾ハ百四十個の金剛石を連綴せるものにて線數三つあり毎線別々に着用することも出來るやうになり居れりこの金剛石ハみな同じ大さのものならざるを得ざればこれを買ひ集むるに非常に困難なりしを幾んど世界中の寶石商を探がせる上漸く同じ大さの金剛石百四十個を買ひ集めたりといふ右の外皇后宮および女官の衣服も兼て伯林府へ注文なしたるを以て女服裁縫師ハ先ごろより非常に繁忙なりしがこの頃漸く調製を終り大なる箱十五個に積み入れて日本に發送したる由

○舞蹈納會　去る廿日午後七時より會員のかた〴〵凡そ九十名ばかりも鹿鳴館に集ひて本年踏舞の納會を催はし畢つて親睦の宴を開かれしとか聞きぬ

○小松宮　二品の宮および御息所にハ去十月二日米國へ向ひうち立せたりしが止むことなき御わたりの御拜行に御息所を伴ハせたるハ初めての御事なりとて當時本誌にも掲げたりしが今承はる所に據れバ同月廿日午前九時恙あらせず桑港に着させ廿三日午後同港より華盛頓府へ向はせらる同政府よりハ接伴員三名を出し同府御滯在中ハその誘導にて議事院兵營其他政府に屬する建物等を日々御覽せ大統領幷にその夫人よりハ十一月十一日ホワイトハウス（大統領の官宅なり）に於て宮および御息所に對面の旨を通知ありしにより三宮別當同夫人其他隨行の人々及び九鬼公使を隨へ同國々務大臣に伴はせホワイトハウスの緑室に於て大統領及び夫人に御對面あらせ各室庭内など御覽ありて後即日午後四時紐育府に向はせ翌日同府を解纜ありて同月廿二日英國倫敦府へ着おらせたるよしに承はる

○訓盲唖院　にてハ中嶋某外三名の音曲師を雇ひ入れ生徒をして琴三絃および鼓弓を習はしめられしところ上達のいと速かなりしとて同院幹事よりこの程文部省へ上申ありしによ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り同省よりハ敎師の盡力による事なりとて中嶋外三名へ賞與ありしといふまた同院にてハ今度盲生にハ風琴ピアノ啞生にハ糸毛細工および婦人洋服裁縫の敎授方を米國人ハルレル夫人に委托せられたりといひまた益々同院の盛大を謀り帝國大學敎授矢田部良吉氏が近々同院長に任せらるべしといふがその信疑ハ知りがたし

○女生徒の體操　我が邦にハいまだ女生徒の體操に適する遊技の器具なども備ハらざるより體操法區々なるハ體育上不都合なりとてその筋に於てハ一定の躰操法と設け器具をも定めらるべき筈にて目下專ら協議中とかいへり

○共立女子職業學校　にてハ晝間寸暇なき婦人の爲に夜學と設けんとの相談あるよしなるがこの夜學に通ふものにハ歸宅の節一々來會の証と與へ通學の途中不都合なからしめんとの方法なりとんふまた同校にてハ來春より染物科の一科と增すとゞなりと聞く

○地方の女子　に職業を授くるの場所なきハ遺憾の事なりしが其筋にてハ來年早々各府縣へ女子職業學校を設立せしめんと既に地方官よりの旨を諭されたりといへバ追々各地方に無職の女子なきに至るべし

○櫻井女學校　中六番町同校の校主矢嶋カヂ氏の考へにて近來女子の學問する方法が如何にも虛文に傾き裁縫洗濯など實際の業と學ふことを嫌ふやうになり行きてハよろしからずとて同校の生徒をして一週間毎に順番を以て女子の修むべき實業を學ばしむる事にせられたりといふ

○明治女學校　九段坂下なる同校にてハ近來小川町、錦町神保町邊へ續々女學敎授所の出來しにより生徒の減少したれバとて今度他へ移轉せんと目下位置を選定中なるが多分ハ番町邊へ移るならんとの事なり

○獨逸人スピシチル氏　ハ日本の女風の振ハざるハ全くその敎育の普からざるが爲めなればとて來年一月中獨逸國に行はる敎育法に自家の意見をも交へまた女子の道德などを講せらるゝ豫定なりと聞く

○米人ミユンル氏ハ　去る十九廿日の兩日木挽町厚生館に於て孤兒院の事につき演說をせられたりしが中々盛んなりしといふ附て同氏ハ米國に於て數万の孤兒を養育したる篤志家にて相應に聞えたる人なりと聞く

○女學校の試驗　橫濱山手居留地百七十八番館フエリス女學校にてハ去る廿日より廿二日迄秋季大試驗と行ひたりと日

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日新聞に見えたり

○越路太夫　曩に東京へ來りて大當りをとりたる大阪の越路太夫ハ今度再び東京よりの招きに應じ去る廿一日神戸發の近江丸にて出京したりといふ

○裁縫學校設立の計畫　京橋區山下町の平嶋喜平氏ハ今度同區内に於て裁縫學校を設立せんと計畫中のよしなるが教師よハ獨逸人某を聘せんとて略ぼろの議も調ひ一月中旬にハ開校すべき見込ありと（以上二件時事新報）

○日本全國民籍戸口表　該表ハ此程内務省總務局戸籍課よ於て刊行せしが今該表に由るに本年一月一日の調査に係る全國戸數總計ハ七百七十二万七千六百十戸、同く人口總計ハ三千八百十五万千二百十七人、内男千九百三十万二百六十一人、女千八百八十五万九百五十六人、此人口を族籍に由て區別すれば華族三千四百十九人、士族百九十四万八千二百八十三人、平民三千六百十九万九千五百十五人なり又昨年中出生總數ハ百二万四千五百七十四人、内男五十二万三千七百六十三人、女五十万八百十一人、同死亡總數ハ八十八万六千八百廿四人、内男四十五万三千三百六十一人、女四十三万三千四百六十三人なり（以下略そ）　（本年十二月廿日官報）

◎學藝一斑

○理學一斑

〔第十八節〕重力の事　重力即ち英語にてグラヴヰティーといへる語ハ鳥渡重量と同じ意味を有し或る重量を有そる物體ハ地球の中心に向て偏倚するといふを得べし然どもグラヴヰティー即ち重力といふとハ重量といふことよりも甚だ廣き意味を有せり恰も雨水が地球に向ひ降り來れるがごとく總ての物體ハ他の物體に近寄らんとそる傾きありとハ無數の經歷と實驗とに由て定まりたる一般の定則即ち自然の定則なりされば如何なる性質の物體にても他の障害なき時ハ二個の物體各々近寄らんとして移動すべきなり

この事を明かにせんにハ譬へばこゝに各々直徑一インチの十分一なる二個の水滴ありてろの量もまた各々同一なる時ハろの隔たれる間ハ如何に遠かるとも相互ひよ近寄らんとして動き始め追々近寄るに隨ひ益々その速力を増加し遂に初め隔りたる中央の所に來りて双方相互ひに會合すべし然れども一方の水滴ハ他の一方よりもその量大なる時ハ大なる方の移動ハ遲くして双方相會する場所ハ大なる方の場所に近き所に於て

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

會ずべし若し一方の大さハ地球のごとくにして他の一方ハ雨の滴ほどのげなる大ならんにハ大なる方ハ殆んど動かざるべくして小なる方のみ移動て大なる方に到る事ならんされバ大なる物體ハ靜にして小なる物體を引寄するものと見えたり

是れ卽ち地球より一英里も隔りたる空中の雲より雨滴の地上に落ち來る理由なり既に雨滴も地球の中心とさして移動するものとせば地球もまた直線に雨滴の中心をさして移動すべき筈なり然るにこの二個の中心を相結ぶ一直線の長さハ物體の大小に反比例するものにて卽ち大なるほどこの線路短くなることなり故に此地球の大さが恰も雨滴のごとく小ならんにハ彼の雨滴の方へ一英里も移動せざるを得ざるべしさるからに物體大小の比例を以て勘定したらんにハ大なる方の移動ハ甚だ瑣細なる事ならん故に地球ハ總て落ち來る物體に比べて殆んど靜止するものといふべし

水にして右の如き理あるからにハ其他總ての物體もまた皆重力を有すること自然の定則なり卽ち二個の物體ハ各々相近寄る力ありてその力ハその物體の大小に隨ひ大なるものほど遲く小なるものほど速かなり

常に重力の定則といふハ則ち皆右と同理に由る事なり

◎ 對譯

(甲)①幸ハ②彼③其人の④友ハ⑤彼に⑥先ちて⑦⑧生れたる⑨所の⑩彼デ⑪ある

(勿の語譯)①退色シタル②⑤⑧或ハ③斑點アル④女衣⑥汚レタル⑦粧飾⑨何でも⑩夫ハ⑪淸潔ナル⑫而シ⑬適當デ⑭⑮あらぬ⑯所の⑰物チ⑱家ニ⑲於テ⑳衣る㉑勿レ●①或②十分に③淸き④而⑤奇麗なる⑥服飾ニ⑦於テ⑧朝餐のテーブルニ⑨於テ⑩顯ハレ⑪新に拔たる⑫花ノ⑬如く⑭新鮮なる⑮淸涼なる⑯而⑰鮮なる(服飾と云に掛る)●①汝の②家族③の④愉快ト⑤而⑥賞歎ニ⑦向テ⑧衣ヨ

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲) Happy is he whose friends were
① ⑪ ⑩② ③⑨ ④ ⑧
born before him.
⑦ ⑤ ⑥

〔意譯〕己れより年とりたる友を持つものハ幸ひなり

DON'T (NASUBEKARAZU).

Affectionately addressed to Womankind.

DON'T wear at home faded or spotted
㉑ ⑳ ⑲ ⑱ ① ② ③
gowns, or soiled finery, or anything that is
④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑯ ⑰ ⑩ ⑭
not neat and appropriate. Appear at the break-
⑮ ⑪ ⑫ ⑬ ⑩ ⑨
fast-table in some perfectly pure and delicate
⑧ ⑦ ① ② ③ ④ ⑤
attire—fresh, cool, and delicious, like a newly-
⑥ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑬ ⑪
plucked flower. Dress for the pleasure and
⑫ ⑧ ⑦ ④ ⑤
admiration of your family.
⑥ ③ ① ②

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

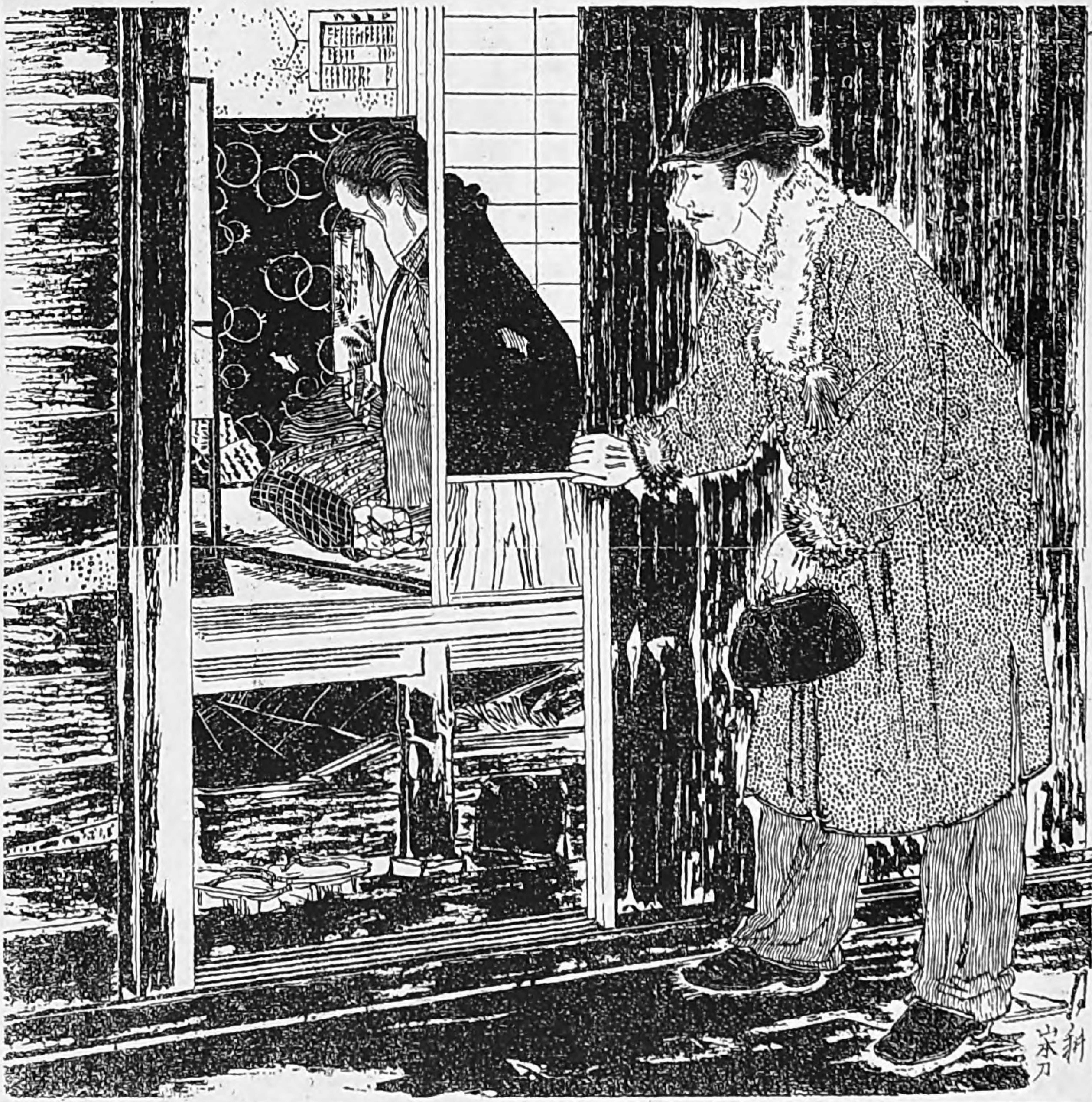
◎列女傳

○瞽女梅澤豐の傳　（前號の續き）

破れたる二枚折の枕屏風かいさぐりながら少し押遣りつゝ今日ハ寒さの殊に身にしみ渡れるに御こゝちハ如何ぞ藥ハまゐり賜ひしかと問へどはか〳〵敷ハ應へもせぬハ主なる寡婦の此日ごろ病氣に惱めるなるべし溫石も甲斐なくなりぬいでや暖めて參らせむと手さし入れて掻探ると腕とゝりて息の下に事々しうさいはゞ營業にも出ず附添ひて居らむがかたはら痛さに強て堪えたれど斯うゝち臥しよりハ日にけに衰へ果て物も欲しのふず今朝調じてこゝに置たる汁粥さへ箸とるもの憂くてさながら手も觸れず此夕ぐれの程より咽喉の何となく迫りて苦しきハ今ハはや限とこそ覺ゆれ是まで長き年月をうらうへなく心盡して仕へし報酬もせで別るゝが悲しきのみかならむ後ハ見ぬめの浦の捨小船いとゞよるべなく漂ふらむさまを如何かと思ひやれバ彼岸にも往きつかで迷ひの中つ瀬にれのれ先惑ひぬべくてそなど心細げにいふを聞くお豐のこゝち如何バかりならむ物も覺えずよゝとうち泣きて甲斐なき此身の上などハ餘處に思ひなして只後の世の安からむ樣に賴み賜ハゝ佛もなどのハ助け賜ハざらむ遺るれのれがながらへむ程ハ情ある人の惠にともかうも成ぬべければ深くな思し惱ませ賜ひそなどいふ〳〵手脚撫さすりながら首傾けつゝいかなれば斯く冷ゑ冷ておはすらむ御こゝちの變りやし賜へると問へど答へもなきに綿うすなる衾のいと遣て此處のしこ窺ひつゝ今まで物いひ賜ひしになどて御應ハ無きぞ今日を限りとも見えさせ賜ハざりしも無常の如く他に出て御傍らに居らざりしが悔しう悲しき事といひながら然とも今一度ハ蘇生らせ賜ハぬ事ハよもあらじと手筥のふた急ぎとりて藥とり出し水にひてゝ漑ぎ入るれど目の疎ければ半ハ流れて枕紙のひた濡れにぬるゝなども知らず御隱居樣尼君と聲のかぎりを呼べど叫べど何かハ答へむ此聲を聞きつけたる同じ長家の人ひとり兩人入り來て何とかならせ賜ひしなど云ひつゝ燈とりて枕頭よりて見つゝ藥や參らせ賜ひつる黑きものゝ流れたるが御顏のさまにてハ此世の者とも覺えず全く絕切れて見えさせ賜へバ今ハ如何しても詮なく侍るべし區役所のとゞけ野邊おくりの準備なども此方のみにてハ不便なるべきに告知らする方などのあふば能く考へて洩し賜ひろ歎きにかい紛れてハ物の用も捗々敷ハ出來ぬものなれば何事にまれ委せてさせらきよか

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

し商ひより歸りこば直にもまゐる
べけれど差配人へハ我こそまゐら
め醫師の診斷書とやらむも必らず
入るものぞとよなど息もつきあへ
ず交るく\いひつゝ相應しき御用
あらば何時にても隔てなく申させ
たまへなどいひながら足音高うい
でゆきたる跡にのこれる阿豊ハ物
もいひ得ず泣き倒れておなじ道よ
もと歎きてせむすべなげなる道理
せめて愍然なりこのとき戶口にひ
たと身を倚せて聞き居たるハ年齡
三十に四つ五つばかりも重ねつと
見えて形裝も淸げなる人の手にハ
銀の金物打たる提革筺引きさげ
つゝ立ちたるがやをら端に尻かけ
て卒爾なる申し條なるが梅澤豊と
よばれて揉療治せらるゝハ此方よ
や豫て主なる老女によく仕へて御



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

奇特なることどもハ能く知れるがその甲斐もなき体になれる時に來會たるも自らさるべき契り有るにこそ此處に恭らせむとて持てきさるハ凡十圓ばかりなるべし物足らずハあるべけれど柩の代終の煙の用にも立よかしとて投げ入れてゆかむとするを阿豊ハ走り躡きながら急ぎ留めて何處いかなる御人か斯く思懸けず數多の黄金惠み賜ふにやつや〳〵心得がたくこそのたまはすると聞けば此盲女が主人に仕ふるさまを褒め賜ひての賜物と覺ゆれど人に雇ハるゝ身の斯ばかりならむハ物の數にも侍らず殊に目を惱み初し比より年月長く勞り養ひ賜ハりし御心ばへの深きに比較てハ百がひとつも報し參らせずて悲しき果に逢へるハ何の取ところも侍りぬにさる御惠受けむハ心苦しき限になむ主もし世に在さば固く辭ミ申せとこそ申すべけれとて差戻しつゝさるにても何方の御人にや御志しの厚きを忘れざらむ記念にハそをだに承ハらまほしうと云へば此尻掛たる人も涙おし拭ひつゝ實多くの人の目よつきて優れてやさしき志しと愛なへるハさる者にて云るゝ處いと理りありて覺ゆれど此方にも思ひよる筋あればこそ尋ね來て斯ハいふなれさればハ物むづかしう云で只受納め置のれよかし名告せむとも易けれど其ハ野邊送りの事など仕果し後にまた自ら顯ハす時ありぬべしとてやをら立歸らむとする處へ喘息〳〵入來る者あり御隱居のわろくなられしと聞ハまことかと云ひつゝ提燈の光に此人を見つゝ其處に在するハ三田の檀那にてハ在せぬかと訝り問ふハ過し夜此阿豊の身の上語たる車夫なりけり扨も記憶よき男かな此人の來つるからハ我住む處も名も包むかひなし野邊送の事どもハ萬負擔て恐にとり扱ひて進せよ事終らば此方に報いせむいいふも更なり阿豊ぬしの上も亦せむ樣ありと言捨て留るも聞ず走り出しハ或會社の社員にて後に阿豊を我長家に住せ物不足なくとらせて養へりとぞ假初の街の物語にも心留て斯惠の露深く懸る人あるも世にあり難き阿豊の心の花の匂より招くとぞいへまし（畢）

◎ 雜記

○史のはなし

去る十二日學士會院の議義席に於て加藤氏の演べられたる大意ハ前號に掲げたりしが同氏の次に重野安繹翁が史の話第三回といへる講演ハ婦人にも讀史上の利益少なからずと思へば幸ひ報知新聞にその大意を掲げたるを左に錄しぬ

余ハ明治十二年および十七年にもこの事につき演説せしが今

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

度ハ第三回にて是より尚ハ第四第五と追々演説する考へなり第一回にハ日本に歴史なしとところの歴史の體裁等不完全にしてたゞ朝廷の任免黜陟の日記に過ざるを正史となし居りし事の間違なる旨を述べ第二回にハ史の事實を誤る事多きを述第一世間にもて嘲すところの日本外史の間違の點を述べ置けりその後各地より取寄せたる書類また自分が各地へ赴き探し出したる書類等ハ目下積みて三万巻におよべり是らの書類に就て取調べたる所を以て今度ハ大日本史の誤を擧ぐべし但し余の取調べ居る所ハ南北朝以後今代まで五百五十年の間なり全体日本史ハ太平記に據り作りたるものにてこの太平記の作者ハ是まで世に知るもの絶えてなかりしが今度漸くにして探し當たり實に自分に於てハ鬼の頭を得るの思ひありそれハ他にあらず洞院公定公の日記に見えたるなりその應安七年五月の記に曰く五月三日傳聞去廿八九日間小嶋法師圓寂(圓寂とハ死去の事)是近日翫天下太平記之作者也凡無爲卑賤之器有名匠聞無謂無念とされば太平記の作者ハ小嶋法師たる事明瞭なり併しその文中にも見ゆるごとく卑賤とあればその記せしものに誤ある事ハ知るべくまた難太平記の中に法師ハ宮方に昵近のものなり云々また十の八九ハ虚あり併し大方ハ違ふべからず云々とありされば愈々以て法師のかきしものにハ虚誕の多きを知るべし當時大日本史を編むにあたり梅松論増鏡等の如き必用なる參考書のありながら獨り太平記を取りたるハ抑々如何といふに前二書ハ北朝に縁故あるものゝ作にして南朝と擧ぐるにハ不都合との意なるべし既に事實によらずして獨り南朝を擧んとするの誤あるを知るべし今その間違の點を擧れば第一に彼の笠置の夢とて後醍醐天皇が楠氏を夢み給しとの事ハ全く法師の假作にして實ハ右中辨日埜俊基をして豫め攝津河内の豪族を語ひ前以て約束の整ひ居し事なりまた櫻井驛の訣別などいふも全く無根の事なり湊川の合戰に正成ハ小貳嶋津の大兵と戰ひ難戰苦鬪の間に遂に討死したるものなり決して訣別の遺訓のといふ事ハなくこの時正行ハ河内に留守居しとりしなり併しその時の戰ひにハ正成も迚も叶ハじと思ひけん豫め死を決したる樣子にてその風聞ハ世間に廣かりしものならん歟當時の記録等にハ大抵その由を記せり是より附會して面白く子別の事などを書立しものならんまた正行ハその時十一歳とあれどそハ誤にて少くもその時ハ十七八なるべし左なくバ後に辨の内侍を賜ひし時ハ僅に十五六に過ざる勘定なり然るに辨の内侍ハ始より後醍醐天皇に御宮仕

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

へせしことなればその時は少くも廿五六なるべし十五六の子供に廿五六の婦人を賜ふとは一寸考ふるも不釣合のことにあらずやまた天王寺の合戰の年月元弘二年とあるは全く三年正月十九日の誤なりと云々」とて神田孝平氏所持の楠公の手紙を參照しまた稻村が崎引潮の事の間違を示點し最後に史は實に據り事を書する者まて文章の花などは何でもよしたゞ事實の誤なきを主となすべき旨を述べられたり

○夫婦大學(四十三號の續き)

斯る不幸なる鎖にて縛られたるものゝ讀むべき一書あり今その中にても必要なるものを左に出さん「世の人の、妻たるものよ、温柔き、妻たるものは、我が良人の、暴き言葉も、逆らはず默して聞けよ、逆らへど、その言の葉の、浪風の、いよ〳〵騷だち、いよ〳〵暴れ、たゞ時間を、贅費にするのみ」といへる詩の意のごとく良人の暴々しくいふこともたゞ默して聞流し居たらんには時歷ぬるに隨ひ良人自ら顧りみて假令へ口にこそいはざれその非を覺るの時來るべしたゞ温柔にてあるは言葉を以て意見するよりも優ること遙かにしてその人の爲には拳もて打るゝよりつらかるべし良人怒りて雨風の荒々しきが如くる時はたゞ何事も堪忍して浪風穩かとなりたる後にこそ靜かにいふべきことをもいふべけれ斯くするはたゞに一方のみにあらず双方の幸ひなり扨てまた人の良人たるものもこの心得なくんばあらざるなり假令我が妻の怒りのゝしる事あるも之を尤むるに餘り嚴酷なるは思慮ある人といふべからず女の性として容易く怒り罵るは固より惡き事の限りとはいへ若し怒れる事のあらんには及ばん限り穩かにいひ聞せ尚は怒りの和らがざる時は自から和らげる時を待ち然る后にこそ道理に訴へて徐かに諭し益々愛すべし斯く温和なるうちに自と威嚴を含むときは初め怒りたることを悔ゐおのづと敬ひ愼むの心を生ずべし

（未完）

○育兒の種

左に掲ぐるものは嘗て矢守貫一先生が東京大學醫學部の教師ベルッツ氏の講演を基本とし歐米諸名家の說を摘集め且は自家多年の實驗を經たる說などに由り著はされたる育兒の種といへる小冊子に乳汁鑑別の法乳母選擇法哺乳法などの心得を信切に說明されたる中よりその大要を摘みてこの頃社友より寄せられたるを更に先生の校閲を乞ひたるなり尚はその委しき事は本書に就て見らるべし

乳汁の善惡を鑑別する心得の大略を記さんに乳汁一滴を顯微

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

鏡にて見る時ハ產後三四日以內の初乳ハ乳球の大小揃はずして其の數もまた僅少く若き乳球相輻りて一種の大胞をなすことありされども三四日を經たる后良き性の乳ハ乳球の數多く互ひに密着して大小不整なとの事なし若し一週間を過ぐるも尚ほ初乳のごとき狀ならんにハ即ち惡しき性の乳なりと知るべし（初乳ハ昔より惡しきものといひ傳へ小兒ニ哺ましめず麻久利といへる一種の下劑を用ひ蝦糞の通利を促す事俗間の風習なり然れども初乳にハ自から一種奇特の性あるがゆゑに產れて一晝夜を歷ざる前初乳一兩度と哺ましむれば能く蝦糞を通利せしむるものなり但しその効能充分ならざる時ハ麻久利を併せ用ふるもまた可なり）乳汁少量を酒盞に取りその中へ赤き試驗紙を容るゝに紙の色青く變ずる時ハ亞爾加里性の乳なりまた靑き試驗紙を入れて赤色となれる時ハ酸性の乳にして共に惡しき性の乳なり良き性の乳ハ赤青孰れの試驗紙をも變色することなしこれ所謂中和性の乳なればなり（本書にハ試驗紙を添あり）清潔なる黑塗の盆に乳汁一二滴をたらし色濃きハ乳球の數多くして良き乳たれども色薄きハ乳球の數少きがゆゑに良からずまた水飲コップの中ニ蒸溜水半分ばかりを盛れ乳汁一二滴を加へ雲脚のごとくなりて分れ下るハ良き乳の溶解るなり若し雲脚とならずして底面に沈澱ハ良からぬ乳の溶解るなれば哺ましむべからず父母勞瘵質、瘰癧質、非常の神經質および梅毒、癩病、癌腫などの病質たらば必らずこの毒質とその子に遺傳すること疑ひなしされば斯る親の乳を與ふるハその毒質を增育する道理なるがゆゑに惡しゝまた貧血者の血液ハ養分に乏しきがゆゑにその乳を哺ましむるハ良しからず月經來れバ乳の性變りて乳兒の健康を傷ふがゆゑにまた哺ましむべからず

扨又乳母を選ぶにハ前に掲げたる病毒なく筋骨逞しく顏色美澤く皮膚に發疹せず齒齦齒質共に強く口に惡き臭なき者を選ぶべし斯て前に記せし試驗法に由て乳汁を撿査し乳房ハ恰好して堅く肥太て腺核多く乳頭正く突出し指にて乳房を壓搾る時ハ色白く味ひ甘き乳汁の充分に排泄を宜とす然ども脂肪多くして指を觸るゝも綿の如く腺核なきハ宜からず（未完）

○婦人の心得（對譯欄內勿れの意譯）

家に居るも色退先汚れたる衣服を着或ハ總て清麗ならず又ハ相應からぬ物を衣るべからず○○○○朝餐の膳に坐る時も新に採る花の如く新鮮にして清麗なる衣服を着て出べし我家族の心持ちよく思ふほどに衣飾るべし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○巣守の妻　第十二回　　春のや主人稿

隙行く駒の足早み今年も三月の末となりぬ年々歳々轉變の浮世の様ハ變れども變らぬハ越野の病痾なり突然いぬる年の暮よりして激しき中風症に罹りてより半身こと〴〵く不隨となり今年三月のはじめまでハ口さへ十分にハきゝのれざりき三度の食事晝夜の用便ともゝ一個にてハ如何とも爲がたし今まで氣丈なりし婦人なりしが斯る不幸なる病に罹りてやう〳〵勢ひも衰へたり親類もなく縁者も尠し柱と頼み思ふ實の子だにせめて枕元に奉侍してありなば流石にその心の安かるべきにその子の新作さへ何と心えけんこの春歸るといふ約束に背きて俄かに英吉利へ渡りゆきて更に二三年を經ざる限りハ日本へ歸るまじといひ越したり件の思ひがけぬ報道にて越野ハガッカリと氣も挫けつ殊にハ右の手が痿れたることゆゑ手紙と書きてやらん譯にもゆかず餘義なくこの頃よりお民の筆にて万事の用向を書送りぬされども中風症に罹りしといふことゝ定めし新作が氣を揉むべし只々少しばかり痿れたりと書くべし必ず中風などゝ書いてハならぬトお民に細々と命令たり最初ハちよとしたる返事の文さへ越野が一通り目を徹して回らぬ口先にて增補校正さて後外國へと送りやりしが後にハ段々に練熟してお民も並ならず上達しぬ越野も感ずるほど巧みなる文体モウ〳〵わたし抔ハ及びませぬト病氣で居る身ながら戯むるゝハ數年の効が見えて嬉しければなるべし

病ふの床にうち臥してより越野ハ一層痩たれども隣家の人々の鑑定にてハ嫁女ハまた一段痩たりとぞいふなる夜分もチヽ〳〵とハ眠らずして年にハ見優りたるお民の孝行まめに甲斐〳〵しく立働く、面痩るもまことに至理看護の疲れよてと傍眼にハ見ゆめり越野も然思ふて憫然しとぞ見るされバこの時より越野の心よ昔と異りたる感情も浮びぬお民を實の子のやうにも思ひぬ實子の新作が恨めしうなりぬ

「お民やもう臺所ハ片附きましたか寔に氣の毒だがチヨイと起して「ハイお危なうございますヨ大層お言葉が昨日からしてア、自分ながら言ひ宜くなッたヨ慾にハ右の手が利いて來たらおまへよ穢らしい虎子の世話を「アラまたおッかさまそんな事を何の穢らしいことがございませうそんな御心配へ餘計な事、デスガ何事も他任せで定めしお飯がお無味かろうせめてお茶碗とお箸だけでも御自身でお取なさることが出來

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れば「イヱ〳〵その様な贅澤はいはぬおまへが信切にしてくれるので妾は今更に(涙ホロリ)良い嫁を持たと(又ホロリ)今じやア新作を貰てゐます(お民も貰ひ泣ホロリとするを急にまぎらして時計を見る振)「チヤ〳〵モウ八時でございますチエ餘程日は長くなりましたけれど(やう〳〵に涙を乾のし)慈母さまアノウ英吉利の新さまの方へ今の御病氣の眞正の事を…委しく書いてあげちや不可ませぬかチエ斯いふ御病氣を御聞にあッたらヨモヤ一旦は暫くでも「サアその邊は疾からして妾も氣が附かない事ではなけれど假令この事を知せなんとしても(お民の貌を憫然氣に見やりて)ア、秋の空と譬にもいふが(お民は覺えずもホロホ

八百一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

口〳〵越野ハ急がはしく言葉を變へ）ア、春の空も當にはならん宜いのへ張物でも出し忘れて……チ、それハさうと何日かも聞かけて邪广が這入り、この舌が自由にきかねバ途中でお廢止にした例の話今更いひだすのも古いことだが全体何故にどういふ譯でおまへハ芝居から歸ッたのだへ何故閉場るまで觀ませんでしたへそれよ不思議なのハあの時以來又ぞろ瀧口がいたちの道薩張貌出さぬも一ッの不審疾かふ聞きたいとハ思ッてハ居たれど何分思ふやうに口がきかれず今日まで延び〳〵に彼れこれ百日、どうやらあの時のおまへの顔色常とハ違ッてゐると覺えてゐる何も事由が無いといふのハ怪しい今日ハ藏さずに始終の事を」ト越野ハ熱心氣に問ひかけたり

お民ハ堪へかねてすゝりなき「おッかさま藏すハ虚言を吐くと同じことで万一知れた時にすみませんから……ほんとにあの時のことを思ふとほんとに妾ハ耻かしくッて、サアあの時のお連れといふのハお長さんに御細君さん（瀧口の妻をいふ）にそれから束髪のお孃さんが二個、たしかお長さんのお朋友だとやら、それに年の若い男の方が、名前ハ宮田さんとかいひますので今ハ銀行とかへお勤めなさるとかで、ハイ瀧口さんの御親類で、たしかお長さんの叔父さんだとのことそれからお芝居へまゐりますとお芝居ハアノウ權八とやらの話でハイ解ることハ解りましたけれど異個に面白いお芝居だと一心になッて見て居ましたうち……

あとハいひさして鼻じろみて仔細をいひかねつゝ涙ぐむハいよ〳〵不審なりと越野の鑑定「ジテそれからして如何しましたか何か異なことでもありましたか何をその様に泣いてゐるのおや早う聞かしてよと眉根に皺、貌をのぞきこみて問ひかけたり

この段なは終らざれども少しく長ければ次號に讓り來る初刷の文面にて十分うめあはせと仕るべし

◎家政要報

◎婦人洋服仕立屋の景況　人々洋服の便利を知り夏頃より益々大流行となり當冬さしいり頃となりてハ何れの洋服店も大繁昌なる所へ取り別本年ハ婦人がたの洋服新調にて裁縫方ハ誠に忙ハしとハ益々衣服改良の望みありといふべし扨て婦人服ハ並物のカシメヤ地にて仕立上り廿圓以上帽子靴および其他一通りの附屬品ともにてまづ三十圓位天鵞絨地にて四十圓以上の相場なり之を日本服新調の費用と比ぶる時ハ速か

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に洋服とならざる者の氣が知れぬ程あり右より上は各自の好みにて直段の高低あるべし女帽子は至て品少く並物七圓内外なりといふ

○和洋織物類の景況　は季節柄とて平常よりは幾分か賣捌けよき方なれども冬季取附ごろの如くならず兎角不景氣の方なるが小賣相場は二子織一反極下等廿八九錢より三十四五錢並物五十錢臺より上物九十錢まで、絹二子織にて一圓四五拾錢より二圓まで、花色木綿裏地三十七八錢より五十錢まで、同金巾三十二三錢より上物六七十錢、同青縞本場行田にて上物一圓廿錢より下等一圓、手拭地三十錢より四十四五錢まで南京繻子一カマ下廿圓より上三十圓まで唐天鵞絨一カマ上七圓唐縮緬無地物一カマ三圓より四圓まで同中形六圓前後、同友、仙染七圓より八圓五十錢までにて二子織は昨年より一割かた繻子類も一カマに付三四圓かたも高直なり唐天、唐縮緬の類は昨年に稍々同じ相場なれども絹織物類は何品も生糸相場に連れ昨年より高直なりされど本年は洋服大流行となり袴地の賣れかた甚だよろしからず

○紀州ネル　は本年七八月ごろ相場下落の爲め織出し高を減じたるがゆゑ昨今は一割乃至一割五分方の直上げなり

○炭の騰貴　追々當用の季節に向ひし炭は昨今餘ほど直上げをなし中にも熊野堅炭(丸ビン)一圓に付上等一俵八九分中等二俵四五分にて最早問屋に品切れとなり成田の小俵は一圓に付八俵半より九俵二三分また野州出は近頃徳用向きとの評判を得しより大に需用者と増加し一俵十五六錢位の並物が二十錢内外下物が十四五錢内外に引上げたり

○羽子板　歳暮年玉の遣ひものにする羽子板は昨年よりも直段安きかたにて二三十錢の品は隨分よろしといふ

○新海苔　は極上等一帖につき十三四錢夫より七八錢下等は五錢ぐらゐのものなり

○葱の直上　本年は府下近傍の農家にて葱作を減じたるが爲め例年より二三割かたも騰貴せしとの事は嘗て本誌にも記したりしが昨今は殆んど品切にて極上の葱は十錢につき廿本乃至廿五本下等六七十本位に直上げせしといふ

○植木職　の手間賃は通例三十錢内外青竹の建仁寺垣一坪水洗ひ上等廿錢中等十八錢山割ものにて十二三錢位のよしなるが昨年に比べて高下なしと聞く

○白米　十六日改正(一等)一斗三升八合(二等)一斗四升五合(三等)一斗四升九合(四等)一斗六升(五等)一斗六升九合

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○年とりたる犬（前號の續き）　散遊亭　園蝶　述

續きまして犬と狼のお咄でございます扨て前に申し上ました犬は狼に頼んで我が家へ歸りましたろの明る朝は狼が申しました通り主人夫婦は嬰兒を連れて例日のごとく野原へ出て參り嬰兒は畑の傍にある木陰に寐かして置て頻りに働いて居りますと例の狼がやッて參りまして嬰兒を攫て迯げますから主人はソレと見るより驚いて大聲を揚る間もなく犬は狼の跡を追ひ難なく嬰兒を取返して主人の前へ參りますと主人は大に喜びまして「能く何所も怪我をさせないで取返して來た、アー己れが惡るかッた、實は年を取て最早役に立んから殺して仕舞ふと思ッたは己が惡るかッた、是からは殺す所か毛一本でも觸ることではない、美いものを食さして飼殺しにするから安心しろ」といひながら頻りに犬を撫ながらまた女房に向ひまして「サアお前は早く家へ歸ッて何ぞ美いものをこの犬に持て來て遣んなさい……褒美に」と申しますと女房は「だからご覧なさい貴人が殺すとおッしやッた時妾が止たのだ、この犬が居なからうものなら眞個に今日はこの兒を攫ばれて仕舞ふところ「マア何でも宜い、早く往て、齒がないから何ぞ和かなものを拵へて而て犬小屋にある鋪物を持て來な」と俄かに大切に致しまそ、犬も是より日々安穩に暮して居りまそ、ソコで犬が考へますまは斯うやッて安穩に暮といふも全く狼の働きであるからろの內何ぞ美いものを貰ふたら禮に遣りたいと思ふて居りました、スルと或日狼がやッて參り「どうだ犬公まづ無事で宜い「イヤ是は狼公、此間は段々と世話になッて早速禮に行くつだが、何ぞ美いものでも主人に貰らッた時と思ひまだご無沙汰をする「ナーニ夫にやア及ばない、トキに犬公己も一ッ賴みがあるが外でもねへ、お前の主人が飼ッて置く彼の羊が食ひたいが、事によるとあれを一疋攫ッて行くのも知れんがろの時やア何卒眼を眠ッて居て呉ねへ」と申しますから犬は暫く考へて居りましたが「それやアいけねへ、マア考へても見ねへ、此間もお前が工夫して己を助けて呉れたも、さうはいとないがマアいッて見れやア主人に信切を盡す仕方を敎へて己を助けたやうなもの、だから可成主人に信切を盡つもりで居るし主人も今じやア大層己を信用して彼も番をしろ是も番をしろといひ附られ、是といふも皆なお前が敎たからの事だと己れやア一心よなッて信切を盡す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

積りで居るのに今のやうな事をいふとハ己にやア解らない」と理窟を並べましたが理の當然だから狼も仕方がなくろの日ハ歸り「ア、ハいッても此間の事もあるから」といひながらまた忍んで來て羊を攫はんとそるを犬が見附まして「デモマア道理の解らぬ男ィャ畜生ざ己れが助けて貰ふた恩ハ恩だが羊の番とそるのハ己の公けの役目だ、公けの役目を怠ッて私恩に報ゆる事ハ出來ねへ」と吠え立てまそから溜りません主人が聞附て出て參り狼と攫へて散々の目に逢はしました是が報を思ふて信切をした卽ち報ひであるといふお咄と致して一先ご免を蒙りますまだ此先き狼が恨を報はんと犬に決闘狀を送り犬ハ年よりで兎ても闘ふ事ハ出來ないさりとて主人に不信な事も出來ず今まで生て居るのハ狼のお蔭もあるからと命を抛出して決闘の塲へ出掛るといふお咄ハまた其内に御氣嫌と伺ふ事と仕りませう扨て今年も最早數日と相成ました明年早々目出度お目見をいたしまする積りゆゑ不相替御贔負の程を願ひ上ます

○數學問題(荅ハ一月十日まで)

水銀ハ淸水より重きと十三倍と五分三なり今淸水十七斤十七分八を容る器に水銀を容る時ハ其重さ幾何なるや

○考へものゝ題(同上)

左の歌ハ本邦の歴史中誰と詠せしや(陸前小野定代君投寄)

けかさしとろの名も濟み世の爲に心つくしのたひの空かな

○前々號數學問題の荅式

里	町	間	尺
25	22	17	2
−18	30	15	4
6	28	1	4

荅 六里廿八町一間四尺

荅者
東京塙とつ、品川木村久、中村のね子、上毛山村常、近江福井、佐賀大山うた、越後大輪信吉、奥州吉村

○前々號考へ物の荅

荅者(祗王)東京中村かね、塙はつ、村山筆、品川木村ひさ、奥州吉村、近江福井、西京馬嶋高厚、同大井正吉、大阪福本福、越前津久井秋野、房州山村よし

◎寄書

○仲國小督の局と訪ふかたへ　上毛　天田　華陽

笛竹の世ハうきふしをわはすらん月にそみゆく琴のしらべよ

○ノルマントン號の沈沒を聞て　寶舟　仙史

紀の海の沖のわら浪いかよしてわかの兄弟をうちしつめけん

○神樂　三田　中村かね子

みかくらやしも夜の庭火かけさへて雲井に高く月もすみけり

○冬月　仝　仝

見る人もなくて冴ぬる冬のよの月や寒けきくきりなるらん

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

藤原明衡朝臣原選　田中従吾軒先生校訂並序

校訂 **本朝文粹** 大本全八册　既刻

定價三圓特別賣價金貳圓購客ノ便利ヲ計リ全部二帙ニ分チ毎帙四卷價一圓宛
但通運遞送料ハ弊堂ニテ辨ス來客ハ其割合丈ケヲ減價ス

此書ハ日本上代文物旺盛ナルノ日ニ當リ王侯ヨリ草莽ノ名家ニ至ル精華萃英ヲ集メタルモノニテ既ニ天下ニ有名ナル書ナレハ茲ニ贅セズ今度田中先生ノ校訂ヲ經テ出版ス本朝文物ノ精英ヲ知ル此書ノ外ニアラサルベシ

小永井小舟先生序　有井範平先生補標

補標 **史記評林** 大本全廿五册

定價十圓特別賣價金七圓購客ノ便利ヲ計リ全部五帙ニ分チ毎帙五册一圓四十錢宛
但通運遞送料ハ弊堂ニテ辨ス來客ハ其割合丈ケヲ減價ス
本月廿五日出版

史記ノ出板世間ニ多シ然圧此書文字ノ鮮明用紙ノ硬白訂正ノ正確標注ノ詳明評語ノ奇警ナル如キハ他ニ比類ナシ購讀ノ上古今獨歩タルヲ知レ
右二書全部御購求モ妨ナシ見本望ノ諸君ハ郵劵二錢送附アラハ進呈ス

東京三十間堀壹丁目

九春堂敬白

團々珍聞 第五百七十六號 **狂畵大附錄**

右ハ戌年の犬が除夜に際し十二支を集めて留別の宴を開き壯士を氣取りて過去未來の要件を席上演説を以て述立る面白き趣向の偶意狂書なり

十九年十二月廿五日發兌

神田雄子町

團々社

●藤澤南岳翁題字●草場船山翁題詞●天野方壺翁題書●日柳三舟翁序文●賛擧諸家合評

●扶桑詩文　毎月一回出版白紙摺金箋原表紙附　唐本仕立美册毎篇紙數四十二片紙

右扶桑詩文ハ毎月二十日ヲ以テ刊行頒布スル者ニシテ本舍々員諸賢ノ妙篇傑作ヲ蒐集シ賛擧員諸家ノ精批細評ヲ乞テ採錄ス其編輯ノ緻密ナル精巧人ヲ驚スニ羕シ明治ノ一大詞史ト云ツヘシ亦体裁ハ四號ト五號トノ文字ヲ用井本文ハ印汁墨ニテ題字詞序跋文ハ印汁黄緑朱等ノ諸色ヲ用ヒ其品格ノ清新ナル麗妍目ヲ眩ス古今ニ超越スト云フヘシ●舍員タランと欲スル者ハ至急入舍証金十錢ヲ送ラハ直ニ証牌ヲ交付ス但入舍申込ノ際ハ詩文ノ近作アル方ハ添送ヲ乞フ●扶桑詩文ハ毎刊必ス舍員ヘハ無代價無遞送料ニテ呈送スルハ勿論毎月詩文若干首ツヽ無料評正ス●第一號ニハ本舍編輯擔任嶋松軒先生著諸名家合評白紙摺唐本仕立舍摺櫻詩集全一册ヲ附錄トシテ呈ス●第一號ニ限リ定數ヨリ二万五千部増刊ノ上日本全國有名大家先生ヘ頒布スルニ付仝號ヘ廣告セント欲スル方ハ至急申込ヲ乞フ

●通常五號活字十八字詰一行金四錢
●特別六號活字廿四字詰一行金五錢
（廣告料前納ニ一割引）

島根縣出雲國神門郡杵築村

出版本局　松軒學舍

賛擧
草場船山　神山鳳陽　江馬天江　林双橋　市村水香　内藤耻叟
藤澤南岳　石津灌園　土屋鳳洲　龜山節宇　日柳三舟　谷如意
佐藤牧山　天野方壺　内村鱸香　山下楓庵　坂本酬窓　小林卓齊

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區內郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵劵代用ハ壹錢切手にて一割増し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替劵と本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　**績文舍**

持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野錦五郎

大賣捌
東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂
同　神田區淡路町　攝々堂
同　神田區佐柄木町一番地　東海堂
大坂備後町四丁目　同　岡嶋文店

驛遞局認可

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY